「認知症の人も働けるコミュニティカフェ」報告書

独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人　地域認知症サポートブリッジ

目次

Ⅰ　事業の背景・目的・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p３

Ⅱ　事業内容・事業実績　コミュニティカフェはあなたの元へ　　・・・・・・・・・・p４

1 実行委員会の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p 4

2、認知症の人が働けるコミュニティカフェの開設・運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p11

3、配茶サービスの実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p 13

4、シンポジウムの開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p14

5、冊子(報告書)の作成と配布およびウェブサイトの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p17

Ⅲ　支援対象者・連携団体の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p18

Ⅳ　全体の成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p26

Ⅴ　今後の取り組みについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p28

認知症の人も働けるコミュニティカフェ

Ⅰ　事業の背景・目的・概要

◎背景

現在、「三鷹市を中心とする多摩地域では認知症高齢者が多く、社会と切り離され引きこもりがちな方も多数存在する。その結果、高齢者を支援する様々なリソース（民生委員、地域包括支援センター）や制度（介護事業制度等）の援助からこぼれてしまっている人たちが多数存在する。様々なケアの窓口となる場が必要であるとともに、認知症の人が、就労を含めた社会参加をすることで、認知症の人と家族が感じる孤立感に対するケアができる機会を創ることが喫緊の課題である。

政府統計ｅＳＴＡＴによると、多摩地区三市（三鷹市、武蔵野市、町田市）の６５歳以上の高齢者人口は２０万近くであり、厚生労働科学研究筑波大学朝田先生の研究結果である認知症の全国有病率推定値１５％（９５％信頼区間で１２～１７％）を鑑みると約 3000 人の認知症の人がこのエリアに存在すると推定される。

然るに、本ＮＰＯと連携を取る三鷹市西部包括支援センターからは、認知症の人のケアを行うご家族の声として「行政の様々なソースから漏れてしまった認知症の人が多数存在しており、彼らは孤立感を深めている。」とお聞きしている。

また、本ＮＰＯの８年間における活動においても、「1 日中誰とも話さず家に籠もっており社会参加の機会も少なく孤独感を感じている」という多数の認知症の人の声をお伺いしている。連携団体でもあるエムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）に通所している若年性認知症の方も、社会とつながる機会が欲しいと話をされている。

◎目的

「認知症の人が、自宅に引きこもることなく住み慣れた街に出て、生きがいを持って暮らせる」

◎概要

「世代を超えて誰もが気軽に集えるコミュニティカフェを運営し、認知症の人がその中で社会的役割（つながり）を得、『働ける』よう、 さらには、カフェを拠点として、行政、地域包括支援センターとの連携の中で、孤立しやすい認知症の人に、配茶サービスなどを当事者も一緒に行い、心のケアと外出のきっかけ作り」のお手伝いする。

Ⅱ　事業内容・事業実績

コミュニティカフェはあなたの元へ

1、実行委員会の開催　（計６回）

①　設置目的：要望事業詳細の内容意思決定
　事業のミッションと関係諸団体それぞれの役割分担の確認
　問題点の把握及び対策、並びに事業の進捗管理

②　委員構成：各団体の代表者等 11 名+認知症の人及びその家族８名
　認知症当事者についてはメンバーを定めず、できるだけ広く当事者の声を集めるべく多くの方に参加していただいた。
　委員長:木之下徹 (認知症専門医)

③　委員会開催時期等　年間６回の開催
　事務局は応募団体である、特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジに設置

第１回　実行委員会

開催時期　平成 26 年７月 31 日　11：00～12：00
開催場所　エムキッチン株式会社
出席人数　６名　（うち認知症当事者１名）

議題　コミュニティカフェの運営（イベント企画）について
配茶サービスの訪問場所について
シンポジウム開催日時検討

※「配茶サービス」については、脱水症状を起こしやすい環境にある方など緊急性の高いところからサービスを開始。訪問先に関しては、包括支援センターから連絡をもらう。なお個人情報、守秘義務などを鑑み訪問先のデータはスタッフ代表のみが所有し管理する。実際に訪問するスタッフには、住所と名前のみを伝える。

※シンポジウム開催は、１０月１５日を予定している。会場は三鷹産業プラザを予約しており約１００名収容できる。広報に関しては、ＮＰＯ地域認知症サポートブリッジのホームページ、三鷹市市報、介護事業所連絡会などでアナウンスの予定。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加
・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加
・三鷹市西部地域包括支援センター：実行委員として参加
・三鷹市大沢地域包括支援センター：実行委員として参加
・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：
実行委員として参加・会場提供
・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：事前の情報提供
・認知症当事者：当事者としての視点を提供

第２回　実行委員会

開催時期　平成 26 年 10 月 21 日　18：00～19：00

開催場所　エムキッチン株式会社

出席人数　６名（うち認知症当事者１名）

議題　コミュニティカフェの運営

配茶サービスの訪問場所について

＊配茶サービスについて

包括支援センターから配茶のサービスにおける高齢者世帯への訪問の依頼あり。処遇困難事例についての相談もあり関係機関とともに今後対応策を考えることになる。配茶サービスで訪問することにより閉じこもり生活を打開できるようにしたい。処遇困難事例については、地域で活動をする上で関係機関とつながりを持つことが重要だと考えている。

＊カフェについて

御近所の方、当事者と家族の方々に利用していただいている。

地域で活躍されている介護事業所の方にも立ち寄っていただいており少しずつ「輪」が広がっている。

＊今後の展開について

三鷹市と隣接する自治体にも助成金事業の活動に理解いただき活動を展開してく予定。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加

・三鷹市西部地域包括支援センター：実行委員として参加

・三鷹市大沢地域包括支援センター：実行委員として参加

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：
実行委員として参加・会場提供

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：事前の情報提供

・認知症当事者：当事者としての視点を提供

第３回　実行委員会

開催時期　平成 26 年 1 月 28 日　18：00～19：00

開催場所　エムキッチン株式会社

出席人数　８名

議題　コミュニティカフェの運営について

配茶サービスの訪問場所について

医師の観点も含めてもう一度振り返る

＊三鷹市の認知症に関しての事業としては、講習会や地域ボランティアの育成など様々な取り組みを行っている。しかしながら、当事者を中心とした活動が少ないことが今後の課題である。認知症であっても、障害があっても当事者を交えた活動を地域で開催できるように考えていきたい。

障害、認知症、独居高齢者など地域で生活を継続するためには、自治体、包括、医療機関、ボランティア団体などの連携はもちろんのこと、地域住民の協力、理解を求めながら当事者の活動が増えていくことが望まれる。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加

・三鷹市西部地域包括支援センター：実行委員として参加

・三鷹市大沢地域包括支援センター：実行委員として参加

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：

実行委員として参加・会場提供

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：事前に情報提供

第４回　実行委員会

開催時期　平成 26 年 2 月 7 日　11：00～12：00

開催場所　エムキッチン株式会社

出席人数　９名（うち認知症当事者３名）

議題　コミュニティカフェの運営について

配茶サービスの訪問場所について

シンポジウムを補完する当事者参加型の催しについて

＊当事者の意見として

「安心して出かけていける場所」としてコミュニティカフェの存在はありがたい。

生活していく上で不安材料が多くなっていく現状がある。相談できる、話せることができる場所、心のよりどころとして大きな期待ができる。

＊医療従事者の意見

認知症、障害者、高齢者が地域で生活をするうえで何が問題でどんな障壁があるのかを専門職がもっと認識していかなくてはならない。

医療体制が整っていてもすべて解決するわけではない。自治体、民間事業者、ボランティア団体などが連携体制をもって協働することが望まれる。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加

・三鷹市西部地域包括支援センター：事前の情報提供

・三鷹市大沢地域包括支援センター：事前の情報提供

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：
実行委員として参加・会場提供

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：実行委員として参加

第５回　実行委員会

開催時期　平成 26 年 2 月 28 日　18：00～19：00

開催場所　エムキッチン株式会社

出席人数　８名（うち認知症当事者２名）

議題　助成事業の活動のまとめ（事業の具体的な成果）

＊訪問することの意味について

当事者から：電話からの声を聞けることもいいが、実際に顔が見え、語りか

けてくれる、笑顔が見れることが何よりも安心につながる。困っていることがたくさんあっても一人では解決できないことがある。そんな時に「ひと」の顔が見れることが何よりの解決策となる。

＊連携団体（町田市つながりの開！）から
町田市でも認知症サポーターの育成など様々なイベントや行事が行われているが、今回の事業のように個別訪問を行っていくことは各地で必要性を感じている。
外部との関わりを好まなくなるのは、当事者の問題だけではなく外部にも問題があるはず。制度や地域の環境など様々な障壁を乗り越え、立場を超えて多くの人が「歩み寄る」精神が今後の社会に必要だと考える。

【連携団体の役割】
・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加
・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加
・三鷹市西部地域包括支援センター：事前に情報交換
・三鷹市大沢地域包括支援センター：事前に情報交換
・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：
実行委員として参加・会場提供
・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：実行委員として参加

第６回　実行委員会

開催時期　平成 27 年 3 月 20 日　18：00～19：00
開催場所　エムキッチン株式会社
出席人数　9 名　うち認知症当事者 3 名

議題　全体総括及び新たなニーズと今後の展開について

＊誰もが共生できる社会を創る必要性が今後の大きな社会問題、だとしたら、

本助成事業は、誰もが今回の事業からスタートできる可能性を生みだしてくれたと考える。特別に難しいことではなく関わるすべての人が当事者であり、わけ隔てのない関係を創り上げることが地域社会、地域福祉として課せられたこと。これからもこの特別に難しいことではない物事に挑戦するスタートラインに立ったと評価したい。自治体から事業継続の要望があることからカフェ、配茶サービスともに活動を継続していく予定である。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：実行委員として参加
・医療法人社団こだま会こだまクリニック：実行委員として参加
・三鷹市西部地域包括支援センター：事前に情報交換
・三鷹市大沢地域包括支援センター：事前に情報交換
・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：
実行委員として参加・会場提供
・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：実行委員として参加

2、認知症の人が働けるコミュニティカフェの開設・運営

① 活動目的及び内容

「認知症コミュニティカフェ」を運営し、認知症の人とその家族が楽しめるイベント、サークル（①梅シロップ作り、②たこ焼きパーティ、③つる細工、④カボチャパーティ、⑤タマネギを使った染め物講座、⑥エステ体験会、⑦ヘアサロン、⑧味噌造り)を用意する事で、多様な人が集まり気軽におしゃべりが出来る場を創った。

また、地域の子供たちに対しても呼びかけを行い、認知症の人が世代を超えて地域の人と交流を図れるようにした。

認知症当事者は、ただ「お世話」をされる「お客様」ではなく、上記のイベントでは「スタッフ」として「仕事」をして頂き、「謝礼」をお支払いする。認知症の人の就労支援については連携団体である「NPO 法人町田市つながりの開」はパイオニアでもあり(http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=89461)、本要望事業でも共働して取り組む。認知症コミュニティカフェでは、認知症当事者の人が最大限に「輝ける」イベントやサークル等を「見つけ」企画運営した。

② 活動日

平成 26 年 5 月より週 3 日から 6 日のペースで実施

（開設 16 時～20 時）

期間	カフェオープン日数
5/1-5/20	11（カフェ準備及び研修）
5/21-6/20	26
6/21-7-20	25
7/21-8/20	27
8/21-9/20	27
9/21-10/20	25
10/21-11/20	27
11/21-12/20	26
12/21-1/20	23
1/21-2/20	26
2/21-3/20	24
合計日数	267

【イベント日時】

1　梅シロップ作り　6月7日　6月9日

（参加者総数12名　うち当事者3名）

2　たこ焼きパーティ　8月5日

(参加者総数8名　うち当事者4名)

3　つる細工　9月30日　11月21日　11月24日

（参加者総数22名　うち当事者9名）

4　かぼちゃパーティ　10月2日

（参加者総数6名　うち当事者2名）

5　タマネギを使った染め物講座　11月14日　18日　19日　29日

（参加者総数24名、うち当事者11名）

6　エステ体験会　11月4日、11日、18日、12月2日

（参加者総数19名、うち当事者8名）

7　ヘアサロン　12月9日

（参加者総数6名、うち当事者3名）

8　味噌作り　2月7日　3月9日

（参加者14名　うち当事者8名）

③　場所

エムキッチン株式会社(デイサービスみのり

（デイサービスみのりの営業時間外実施）及び隣地敷地。

④　対象者

東京都多摩エリア(三鷹市、武蔵野市、町田市)を中心として、

認知症の人と家族、地域の人　年間のべ1532名が来訪。

うち当事者のべ242名。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ

：コミュニティカフェのデザイニング及びマネジメント、イベント運営

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：医療相談窓口（医療連携）

・三鷹市西部地域包括支援センター：広報

・三鷹市大沢地域包括支援センター：広報

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：

コミュニティカフェの実施場所の提供、介護相談

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：

認知症の人の就労相談及び支援のノウハウ提供

3、配茶サービスの実施

① 活動目的及び内容

配茶サービスは、水分補給により脱水を防ぎ、医学的に体の状況をモニタリングするのみならず、普段、孤独感を感じている認知症の人と話をする場を提供し心のケア、地域の人と出会う場であるコミュニティカフェにお誘いするきっかけを与えるものである。認知症当事者がスタッフと連れだって他の認知症当事者宅をお伺いした。認知症の人とその家族と膝を突き合わせながらお話をお伺いする事を想定している。したがって「飲料（茶など）」「お菓子」「パン」「ホカロン」など、認知症の人の心をほっこりと開くものをお持ちした。

話をお伺いする中で、医療との連携が必要なケースについては、連携する医療法人社団こだま会こだまクリニックに、介護、福祉との連携が必要なケースについては包括支援センター又はエムキッチン株式会社につなぐ。コミュニティカフェは、「待ち」から積極果敢に「攻め」に出て、社会のリソースにつなげていくことに心を砕いた。

② サービス実施日

8 月 5 日から 9 月 17 日まで週 1 回

9 月 24 日から 10 月 16 日まで週 2 回

10 月 21 日から 2 月 19 日まで週 3 回

2 月 25 日から 3 月 19 日まで週 2 回

計　75 日

③ 訪問場所

東京都多摩エリア(三鷹市、武蔵野市)の認知症の人と家族を含む高齢者、障碍者世帯（ケア、医療につながっていない処遇困難な事例）

④ 広報

三鷹市西部地域包括支援センター及び、三鷹市大沢地域包括支援センター、及び三鷹市からの紹介

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ
　：トータルマネジメント＆チラシ作成および配送
・医療法人社団こだま会こだまクリニック：医療相談窓口（医療連携）
・三鷹市西部地域包括支援センター：広報、訪問先の紹介
・三鷹市大沢地域包括支援センター：広報、訪問先の紹介
・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：介護相談
・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：認知症の人の就労相談及び支援のノウハウ提供

4、シンポジウムの開催

ー　シンポジウム

①　活動目的及び内容

認知症の人の社会参加等をテーマにして、認知症当事者、医療･介護関係者を集め開催した。進行方法としては、第 1 部で、医療法人社団こだま会こだまクリニックの認知症専門医師により基調講演「認知症とより良く生きる」が行われ医療とケアの今後の展開についてお話を頂いた。その後第 2 部で質疑応答及び懇親会を催し、認知症コミュニティカフェの企画運営に携わった連携諸団体(三鷹市包括支援センター、NPO、エムキッチン株式会社)等より担当者も集い、今後の活動の課題について取りまとめを行った。

②　開催日時

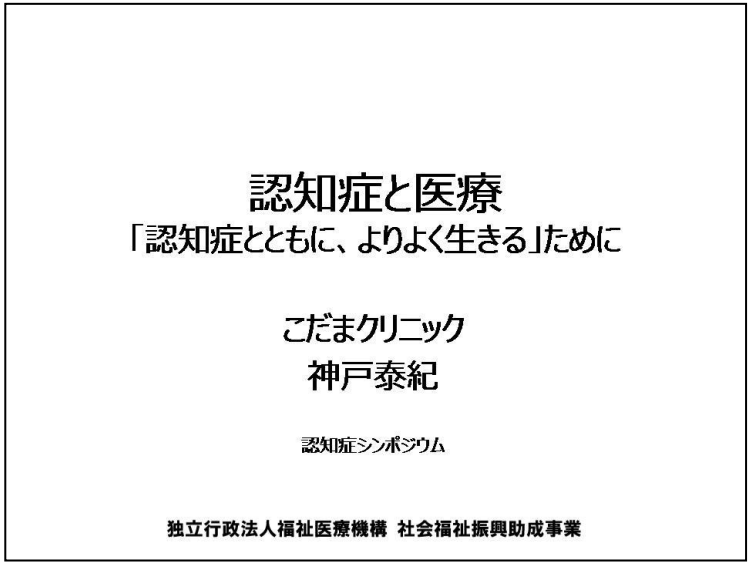
平成 26 年 10 月 15 日

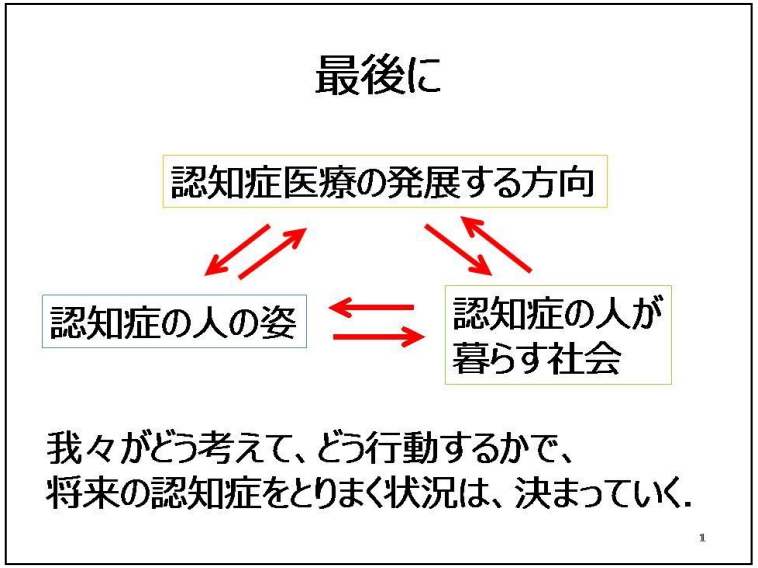
③　開催場所

東京都三鷹市産業プラザ

④　参加者

医療従事者及び介護従事者 48 名（うち認知症当事者及びご家族 5 名）





⑤　広報手段

当 NPO が 8 年にわたって行ってきた認知症連絡会の参加者 3467 名のうち連絡可能な人にメールにて開催通知を出し、併せて三鷹市内包括支援センター、社協を通じて市民に広報を行う。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：
企画トータルマネジメント

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：講師　パネラー

・三鷹市西部地域包括支援センター：広報

・三鷹市大沢地域包括支援センター：広報

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：パネラー

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：企画

二　当事者を囲む会

①　活動目的及び内容

認知症の人（当事者）に集まっていただき、助成事業を振り返っていただき、今後の事業展開の可能性について議論した。

②　開催日時

平成 27 年 3 月 29 日

③　開催場所

エムキッチン株式会社

④　対象者

当事者及び医療従事者介護従事者 20 名

（認知症当事者及びご家族 9 名）

⑤　広報手段

当 NPO が 8 年にわたって行ってきた認知症連絡会の参加者 3467 名のうち、特に強い関心を抱いてくださっている方 100 名に開催通知を出した。

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ

　：企画トータルマネジメント

・医療法人社団こだま会こだまクリニック：情報交換

・三鷹市西部地域包括支援センター：情報交換

・三鷹市大沢地域包括支援センター：　情報交換

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：　会場の提供

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：広報

5、冊子(報告書)の作成と配布およびウェブサイトの作成

作成部数：200 部

配布先：認知症当事者関係団体　100 部

三鷹市包括支援センター　50 部

その他医療介護関係者　40 部

保存分　10 部

※ウェブサイトについては本プロジェクトのものを新規に作成

ホームページの URL は　http://community-cafe.jimdo.com/

【連携団体の役割】

・特定非営利活動法人地域認知症サポートブリッジ：執筆、メディア紹介、資料配布

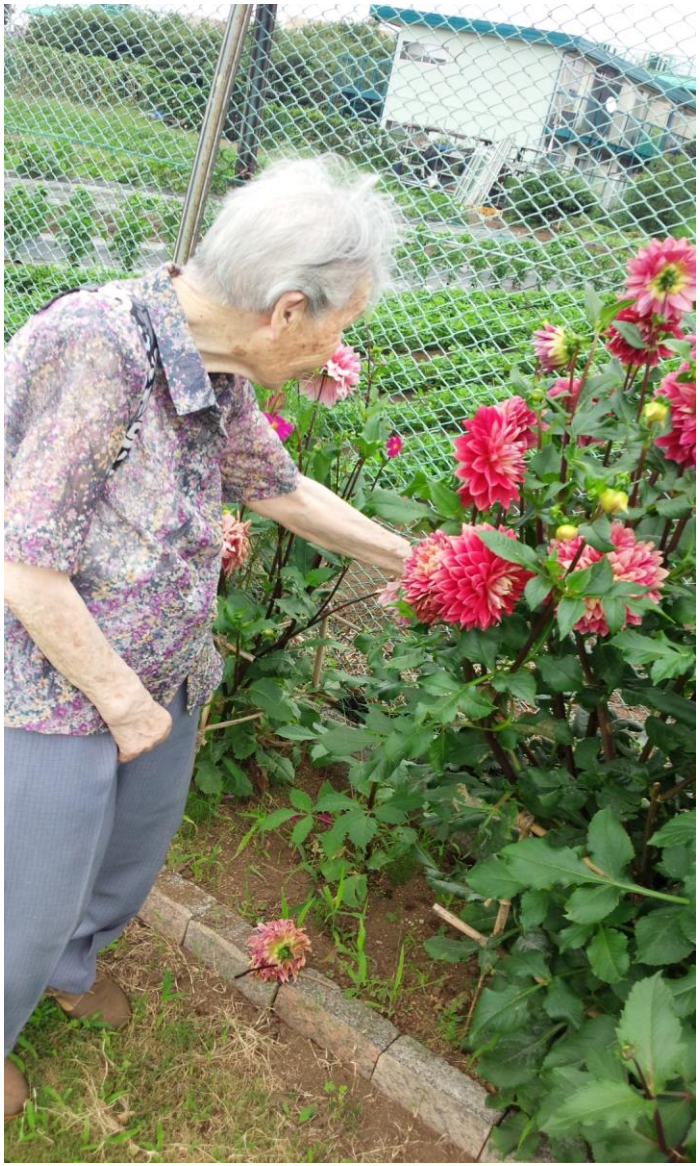
・医療法人社団こだま会こだまクリニック：情報提供、監修

・三鷹市西部地域包括支援センター：情報提供、監修

・三鷹市大沢地域包括支援センター：情報提供、監修

・エムキッチン株式会社（デイサービスみのり運営）：情報提供、監修

・特定非営利活動法人　町田市つながりの開！：情報提供



Ⅲ　支援対象者・連携団体の声

・お味噌作り、初めて。これがお味噌になるのね！(当事者・味噌造り)

・家でもやってみよう！(当事者・味噌造り)

・本人の真剣な表情にびっくりします。すごい集中力でした。
　できるんですね。(家族・味噌造り)

・共同作業が良いですね。自宅での共同作業は…ないですね。
　(家族・味噌造り)

・昔は梅干し漬けてたのよ。思い出すね。(当事者・梅シロップ作り)

・季節に合わせてのイベントを楽しみにしています。
　(家族・梅シロップ作り)

・作るのが楽しいです。なんでも作れそう、これからも。
(当事者・たこ焼きパーティ)

・普段、食欲がなくても大勢で作るとちゃんと食べている！
(家族・たこ焼きパーティ)

・認知症になってからは、外食する機会も減っていました。食べる楽しみだってありますね。たまには、外に出ないといけないと思いました。ありがとうございました。(家族・たこ焼きパーティ)

・すてきな器があっという間にできて楽しかったです。早速使います。(当事者・つる細工)

・面白かったです。難しいところを先生に手伝ってもらって最後までできました。今度はもっと大きいものを作りたいです。みんなで作っているのが楽しいです。(当事者・つる細工)

・参加することでたくさんの可能性が生まれると思いました。家族として日々の励みになります。ありがとうございました。(家族・つる細工)

・楽しそうな本人の顔を見てびっくりです。家ではなかなか余裕がなくて・・・できないことを探してしまうことが多かったかもしれません。反省。(家族・つる細工)

・あっという間に時間が過ぎ、皆さんと過ごせました。こういう時間があったんですね。(家族・つる細工)

・小さくても甘味があってみんなで作るとなお美味しくいただきました。季節のものを食べれる幸せですね。(当事者・かぼちゃパーティ)

・いろんな色のカボチャを初めて見ました。可愛いですね。(当事者・カボチャパーティ)

・一つのかぼちゃが煮物にもデザートにもなってびっくりです。(当事者・カボチャパーティ)

・認知症でも料理もできます。火も使えます。一緒にいればなんでもできます。(家族・カボチャパーティ)

・もっと沢山の染物をやりたいです。玉ねぎってほんとに面白かったです。
(当事者・たまねぎ染め物講座)

・玉ねぎは食べるだけではなかったのね！大発見しました。
(当事者・たまねぎ染め物講座)

・本人と一緒にできることが楽しいです。来てよかったです。
(家族・玉ねぎ染め物講座)

・若返ったわよ！若い人たちと同じ。昔からやってたら歳とらなかったのにね！(当事者・エステ体験)

・気持ちいいですね～。お父さんにもやってあげようかな！(当事者・エステ体験)

・いくつになっても、認知症になっても女性ですね。(家族・エステ体験)

・ひとりでは美容院に行けないから嬉しいです。スッキリしました。
(当事者・ヘアサロン体験)

・すごく助かりました。美容院に行きたかったの。
(当事者・ヘアサロン体験)

・美容院に連れて行くと順番を待てなくてあきらめて帰ってきます。有難いですね。(家族・ヘアサロン体験)

●三鷹市健康福祉部障がい者支援課　藤井様

平成 27 年 3 月 19 日

特定非営利活動法人
地域認知症サポートブリッジ　様

「配茶サービス」について

いつもお世話になっております。

三鷹市井口のＫさんへの定期的な訪問と報告をありがとうございます。

ご本人が病気という自覚がなく、キーパーソンの妹さんは市外にお住いのため、なかなか既存の福祉サービスの導入には至りませんでした。三鷹市の在宅生活支援事業の生活支援員が訪問して安否確認をしていました。それでも昨年の猛暑の最中には、自宅に居るようなのにノックをしても本人が出てこないこともあり、訪問回数を増やしたりもしていました。しかし、生活支援員も市内全域を訪問対象としており、なかなかこのお宅だけに何回も訪問ということはできない状況でした。そのタイミングで西部地域包括支援センター経由で「配茶サービス」のご提案がありました。

10 年以上も地域の方の見守りだけで生活していた方なので、今回訪問のサービスが増え、この方を支援する輪が広がり、心強く思っております。今後ともどうぞよろしくお願いします。

三鷹市健康福祉部障がい者支援課
保健師　藤井　民子

●三鷹市大沢地域包括支援センター　香川様

配茶サービス

支援や見守りが必要な高齢者がみな公的サービスを受けているわけではなく、逆にサポートが必要なのにもかかわらず支援を受けたがらない方は増えてきている現状がある。

このような方の見守りや安易確認に関して、従来行政や地域包括支援センターは有効な手段が講じられずにいたケースが多かった。地域包括職員や民生委員や地域の見守りボランティアによる安否確認もなかなか定期的というわけにはいかないのが実情であった。

この配茶事業はそのような方に対するアプローチとして非常に有効である。お金がかからないため所得の低い方にも紹介しやすいこと、お茶等をもらえることのメリットがあり支援を受けたがらない方にも受け入れられやすいことが大きな理由になると思われる。

今後、展開が考えられるとしたら、安否確認とお茶に加え、様々な情報をお渡しすることも考えられるのでは？例えば、ニュースレターのような形式で社会資源やイベント、消費者被害への啓発、時事ネタ等々・・・独居高齢者が外に出るきっかけになるとよいと思います。

●三鷹市西部地域包括支援センター 主任介護支援専門員 服部様

認知症の人が働けるコミュニティーカフェ事業考察

1.認知症の当事者が主体的に取り組めるという要素

認知症の当事者が、働くということについて、地域の理解が得られにくい現状の中での取り組みなので、非常に事前調整が必要な事業と認識しています。ただ、デイサービスという活動場所をデイサービス事業外の活動の拠点として、相談の流れの中で当事者の意識に着目しエンパワメントしていることは、大いに注目できます。また、BPSD症状が顕著に現れている利用者さんも、受身から能動性へ発想を転換することで、その方の気持ちに寄り添い、ケアに結びつけることが出来るという成果も感じます。センター方式もその方中心に展開していく要素がありますが、関わる側の支援者の意識の中にある「お世話をしたがる気持ち」にも、一石を投じる活動であると思います。
そういったこの活動は、成果を発信してくことで、更なる効果を期待したいところです。

2.地域から見た配茶サービスの成果
配茶サービスは、当事者の方々と一緒に専門支援員が、帯同していただけるので、地域で見守りが必要な方々への見守る目、コミュニケーションのきっかけ、支援開始の切り口として成果がありました。地域包括支援センターで、地域の方からの通報で、包括センターへつながった方は、本人が援助を求めていないので、関わりを始めることが困難を極めます。また、そういった方々は電話などのコミュニケーションツールが使えない状況の方の多く、接点も持ちにくい状況です。そんな中、関わり方には多様なスキルが必要な状況の支援になりますが、専門職員が帯同していただけるので、難しい方の支援にも対応していただきました。差し上げるもの（お茶）を持っていくということをきっかけに訪問できるということも成果を生み出している要因だと思います。

3.配茶サービスの見守り活動と地域の見守り活動の違いと今後の連携
三鷹には、社会福祉協議会が組織した「ほのぼのネット」というボランティアグループが、全市的に整備されています。そのほのぼのネット員さんが、見守り活動を続けていますが、配茶サービスは、その活動とは、一線を画す活動実績があります。その内容としては、上記のように専門相談員が帯同できるので、精神科疾患の方や介入拒否の方にも対応していただけるという要素です。例えば、精神科疾患を長く患っているが、セルフネグレクトの状態で医療機関にもつながらず、地域の見守りの中で生活されていました。その方は、訪問しても出かけていることが多く、医療機関にもかかっていないので、介入が困難を極めていました。ただ、「お茶を届ける」というわかり易い要素や定期的に訪問していただけるという要素があり、少しずつその方の受け入れが可能になっているという成果がありました。ほかにも、地域のボラティアさんでは、対応が困難であろう方々に、介入する切り口としての成果

があると感じます。
今後は、配茶サービスを切り口に介入が可能になったり、公的なサービスが導入できた後には、「ほのぼのネット」の見守り活動や介護保険サービス事業者へ引き継いで行くという連携も必要かもしれません。また、逆に「ほのぼのネット」の活動と連携していくことで、「ほのぼのネット」からこの事業を紹介いただく可能性もあります。
また今後、市内の地域包括支援センターへも事業の理解を促し、更なる協力関係を築いていけるように、一緒に取り組めると良いと考えます。

H27年3月20日
三鷹市西部地域包括支援センター　主任介護支援専門員　服部将志

Ⅳ　全体の成果

１、事業の具体的な成果等について

① 認知症の人が地域の人、学生、子どもなど、多様な多世代の人と触れあう機会が増え、引きこもりを防止することができ、社会とつながっているという感覚が得られる。

② 地域のリソース（医療・介護・福祉）とつながる事で、認知症の人とその家族の日常生活のしづらさを解消する。

③ コミュニティカフェ自体が認知症の人にとって「働く」場になる事で、世の中の誰かのお役に立ち必要とされている感覚、認知症の人が抱える孤立感が解消される。

④ コミュニティカフェで近所の人と話をし、知り合いになれば孤立せずに、緊急時に互い助け合える関係になる事も可能となる。

【指標による成果の評価】

① 認知症コミュニティカフェの全体利用者数及び、認知症の人の利用者数（のべ人数）1532 名
※相当数の利用を得た。

② 配茶サービスの訪問件数（のべ人数）1152 名
※相当数の利用を得た。

③ シンポジウム及び当事者を囲む会　参加者数　48 名＋20 名
※地域住民、行政、医療福祉関係者、認知症当事者の相当数の参加を得ることができた。

④　認知症の人とその家族への報酬額　94,000 円

※認知症の人と家族の主体的参加度を評価する項目である。

⑤　医療機関、介護施設、福祉施設との連携件数　20 名

※従来の制度の枠からはみ出していたため救いの手が及ばなかった方 20 名セーフティネットに結び付けることができた。

⑥　ボランティア参加人数（のべ人数）のべ 180 名

※地域の人の関わり度を評価する項目であるが、相当数の地域ボランティアに関与して頂いた。

⑦　波及効果について

・東北の被災地で活動している NPO 団体などからの問い合わせがあり実際に東京に来てインタビューをして頂いた。東北エリアにおいては、現在仮設住宅から復興住宅への移行が進んでいるが、その中で孤立感を深めている高齢者は増えているとのこと。我々のノウハウを吸収したい旨のお話を頂いており、近い将来において被災地においても同様の事業モデルを実施してみたいという感想と決意を頂いている。

・コミュニティカフェに、地域の中高生が訪れた。中高生にとっても、コミュニティカフェにお出でになった地域の高齢者と触れ合う機会となったが、その中で高校生が中学生の勉強を見てあげたり、助成金スタッフが中高生の勉強をみてあげたりなどの、活気ある俄か「寺小屋」となった。予期せぬ「つながり」効果で、コミュニティカフェは活気づいた。

【結論】

要望書において効果を測定するための基準として上記指標を考えたが、それぞれ一定程度目標を達成したと考えられる。

２、助成事業実施過程における課題とソリューション～同様の事業をされる方へ～

(1)コミュニティカフェ自体に足を運ぶということに対しては心理的な敷居が相当見受けられた。実施数か月が経過しても地域の高齢者のコミュニティカフェ利用者数に伸びが見られないので、配茶サービスでの宣伝を積極的に行った。と同時に参加費用を 500 円から 100 円に下げた。その結果参加者数は大きな伸びをみせた。１コイン 500 円であれば心理的障壁は少ないと当初考えていたが、やはり少なからずバリアにはなっていたと考えられる。

(2)コミュニティカフェで行うイベントの実施内容については、実際に参加される認知症当事者の声に従い決定した。認知症当事者に高齢者が多かったため、つる細工、染め物講座など当初想定していなかったニーズやリクエストの多いものとなった。認知症のご本人が「働ける」場でイキイキと働き、地域の人との交流の場になった。

(3)シンポジウムについて、当初予定していたのは、第一部で連携医療機関の医師による基調講演、第二部で、認知症当事者参加によるパネルディスカッションを行う予定であったが、認知症当事者の方が参加される場合の心理的フォローを取る態勢が十分にできなかったため、シンポジウムでは

医師による基調講演のみとして、認知症当事者が参加し、医療従事者や地域の方と議論し合う機会は別に設けた。

(4)報告書 200 部の配布については、認知症当事者に多く本事業を知っていただきたいために、認知症当事者を支援する NPO に重みを置いた。

Ⅴ　今後の取り組みについて

※コミュニティカフェに「来れる」人は、様々なリソースと「既に」つながっている、あるいは「今後」つながる可能性があるという点で既に救われて「いる」と言える。

助成事業の実践により、既存の福祉リソースに繋がれない高齢者（認知症の人を含む）が相当数存在することが確認できた。これらの人については配茶サービスが有効で、これをさらに積極果敢に行うことで、既存のリソースにつなげていくことが可能となる旨、連携する地域包括支援センターの皆さまからも、事業の効果の大きさについてお話を頂いている。**今年度も「既に」配茶サービスの要請を地域包括支援センターから頂き、自己負担により配茶サービスを開始している。**

※既存のつながり・関係を強化しながら、助成事業を通じて得られた地域の他リソース（大学、初等教育機関、医療・福祉・介護諸機関、民間企業及び行政機関）とのネットワークを形成し、幅広く事業を継続していく。

※地域の小学校などとの連携を深め、子供たちが気軽に立ち寄れる空間を創る事で地域の中に根差した活動としていく。また、ＩＣＵ（三鷹市）、亜細亜大学（武蔵野市）等近隣の大学と連携し、活動「ボランティア」を要請していく。さらには、シンポジウムで活動報告し、多摩地域のみならず、隣接する諸地域、首都圏全体への活動へと広げていきたい。